

あらすじ

初めて産院を訪れた日、誰しもが不安と期待のいりまじった複雑な気持ちにおそわれます。

寺崎さんもそのひとり。月経が停まり、時々気持ちが悪くなったり、吐くこともありました。

現在妊娠を最も早く確かめる方法に、尿による反応テストがあります。テストの結果、寺崎さんにも妊娠反応があらわれました。

しかし受精は、その何週間か前に、すでに行われています。最終月経から、約半月たった頃に排卵が行われ、その頃女性の体内に入った精子は、卵と出会います。

1ヶ月に1個とび出す卵をめがけて殺到する何億という精子。闘いに勝った唯一の精子のみが卵と結びつき、新しい生命が芽生え分裂が始まります。これが**受精**です。

受精した卵は分裂を重ねながら、1週間位かかって卵管を通り、子宮に下ってゆきます。子宮の内膜にくっついた受精卵—これを**着床**といいます。

やがて胎盤がつくれます。胎児はその胎盤を通じて、母体から栄養を吸収したり、廃物を送り返したりしながら、子宮の中で成長してゆきます。

妊娠と気づくのはこの時期で、胎児はもう2ヶ月位に成長しています。

共稼ぎの寺崎さん、早速、ご主人に報告、ささやかなお祝いをします。

妊娠2ヶ月目は、流産が多く、この時期の胎児は大変鋭敏で、いろいろな事で影響を受けやすい。

3ヶ月目。定期検診の際、胎児の心音を聞かせてもらいます。お腹の中から聞えてくる赤ちゃんの鼓動。初めて実感が湧いてきます。

4ヶ月を過ぎると、胎盤は安定期に入り、流産の心配は少なくなります。早い人はツワリもなくなり、今度は人1倍食欲が出てきます。お腹の中の赤ちゃんが動くのを感じ始めるのも、この頃からです。

5ヶ月目からは、成長の度合が急に大きくなり、母体にかける負担が多くなり、栄養が不足すると、持病が出たり、妊娠中毒症にかかりやすくなります。

中毒症にかかると、血圧が高くなり、蛋白反応やムクミが出ます。中毒症は、母体だけでなく、胎盤をいためるので、

胎児への影響も少なくありません。

妊娠後期に入った小長井さん。妊娠中毒症の注意と、食事指導を受けました。

栄養が片寄らないように、研究して、1週間の献立表をつくります。塩気が少なく、栄養のあるもの……。

妊娠の後半は、母体の体力が胎児の健康を左右する時期です。出産にそなえて、体力と気力を充分養っておく必要があります。

出産の時期が近づくと、胎児はだんだん子宮の下の方に下がってきます。

いよいよ生まれる時がくると、子宮が収縮し、その力で胎児は自然に押し出されます。この収縮が**陣痛**です。

動物たちが自分の力だけで楽にお産をする様に、人間も本来はごく自然に出産できる能力を持っています。自分の力で産もうという心の持ち方は、出産の時の強い励ましとなります。

出産を間近に控えた大島さん。赤ちゃんのもの、自分の着換え、母子健康手帳、健康保健証、印鑑、診察券など必要品の点検をして、いつでも持ち出せるように袋につめておきます。このころから1週間に1度は診察を受けるようにします。

予定日は2日後とのこと。予定というのはあくまでも計算上の日ですから、1、2週間のズレがあっても心配はいりません。

10分おきにおなか張ってくるとか、水がおりるとか、おりものがあるようだったら、お産の始まったしるしですから病院に来るようにとの指示を受けました。

11月5日、午前11時32分。大島加奈江、男子出産。

新しい生命を生み出すこと、人間の様々な行ないの中で、これ以上確かな手応えがあるでしょうか。新しい生命を生み出す力、それがこの世界の根底を支えているのです。

用途 妊婦だけでなく、男の人たちにも妊娠に対する正しい理解を持ってもらう。

高校生の保健教材及び家庭科の育児にも使える。



株式会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1 スタングード・ビル

電話 03(342)5768 代表 〒160

取扱店

頒布価格

¥ 130,000